

洪水被害のない地域づくりを 目指した田んぼダム事業

—洪水防止機能—

さばえ
鯖江市



水田風景



看板

近年、地球温暖化などの要因により、全国各地で局地的な集中豪雨が発生している。住宅地や道路・田んぼなどに降った雨は、側溝や排水路を通じて河川に流れ込み、各地域で洪水被害が多発している。鯖江市や福井県では、河川や排水路などの整備を進めているが、十分に対応できていないのが現状である。



さばえし
福井県鯖江市

鯖江市では、平成 24 年度より治水対策として田んぼダム推進事業を実施している。令和 3 年度末で鯖江市の田耕地面積約 2,000ha のうち、1,425ha を田んぼダムとして整備し、洪水被害の軽減に努めている。

〔洪水防止〕

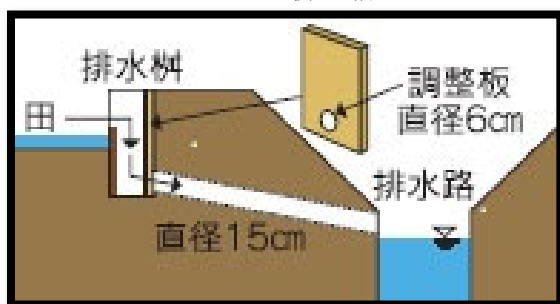
田んぼの所有者や耕作者の協力を得て、田んぼの排水枡に排水管（直径 15 cm）より小さな穴（直径 6 cm）の開いた調整板を取り付け、豪雨時田んぼを活用して一時的に貯めることで、洪水被害を軽減している。



排水枡



排水枡（調整板挿入）



田んぼダム(排水管の場合)

田んぼダムを設置していると、1 日に 80 mm の雨が降った場合、未設置の田んぼよりも 1.8 cm 高く水が貯まるという実験データがある。

これを 100ha の田んぼで換算すると、18,000 m³の水をためることができ、25m プール約 40 個分に相当する。

《鯖江市 田んぼダム》

https://www.city.sabae.fukui.jp/kurashi_tetsuduki/jogesuido/oshirase/tannbodamu.files/1.tannbodamusetumei.pdf